

---

**認定特定非営利活動法人 Switch**  
**2016年度 事業報告書**

(第6期:平成28年5月1日~平成29年4月30日)  
期間:2016年5月1日 ~ 2017年4月30日



## ■はじめに

「多様性を認め合う社会を目指して」法人の理念を再確認した平成28年度でしたが、法人の明確なビジョン・ミッションを可視化することができずもやもや感があった中、内閣府による「社会的インパクト評価」事業に手を挙げ、伴走型支援がスタートしました。そして、わたしたちが日々取り組んでいる事業はどのような価値をもたらすのか・・・について何度も考えてきました。平成29年度から、障害者雇用率は、2、2%に引き上げられ、精神障がい者の雇用の義務化も始まります。その一方で、就職した方々が働きつづけることができるよう定着支援事業の新たなカテゴリーが始まります。被災地沿岸部は、生活再建が進まず苦しんでいる住民もいらっしゃいますし、不登校出現率も高い数字、高校中退率も同様です。それらの社会課題に対して、私たちの活動はどのような課題解決ができるのだろうかと問い続けてきた一年でもありました。しかし、助成金・委託事業・寄付金による事業費が多くを占めた一年であったことは、同時に地域のそれぞれの課題へコミットしながら、持続可能な支援活動につながるものとなったと思っております。これらのアウトカムを次年度に向けてどのようにスケールアップしていくことができるかを考え、今後も地域へ貢献できる法人を目指していきたいと考えます。

認定特定非営利活動法人 Switch 理事長 高橋由佳

## ■平成28年度 事業成果のまとめ

平成28年度は、障害福祉サービス事業については仙台、石巻、2拠点体制で迎える2年目の期となりました。

スイッチ・センダイについては、前半の利用者の伸び悩みはあったものの、後半に向けての利用者数の増加や、就労希望者の参加日数の増加により、結果として高い就職実績を実現することが出来ました。

スイッチ・イシノマキに関しては自立訓練事業所として就労だけの枠組みではなく幅広く自立に向けた活動を進め、被災地特有の生活課題に対応した事業を展開しました。

ユースサポートカレッジ仙台 NOTE, 石巻 NOTE では、インターンシップや有給職業体験プログラムに取り組むとともに、福祉の枠に捉われない就労支援の可能性を模索してまいりました。

9か月間にわたった調査事業「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」事業においては、石巻 NOTE の就労支援の有効性や、地域企業へのインパクトの大きさを確認することが出来ました。

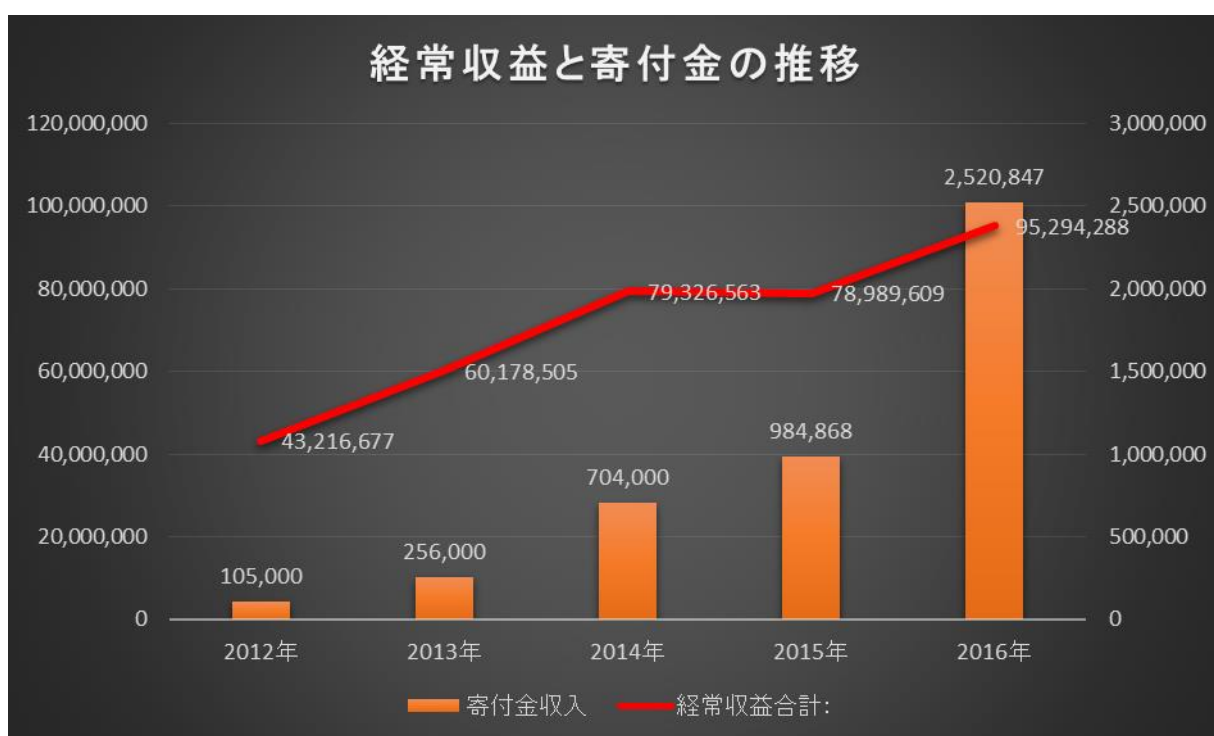
財務状況に関しては2014年、2015年度と経常減額決算という形となっておりますが、2016年度は2期ぶりの経常増額という形で決算を終えることが出来ております。

今回過去5年間の財務状況の確認を行ってまいりましたが、寄付金、助成金、事業収入など、主要な財務指標は、おおむね増額することが出来ており、今回正味財産も増額ということで、安定した財務基盤が構築されてきていると考えられます。

東日本大震災から6年が経過し、復興のフェーズも刻々と変化して行く中、仙台と石巻という異なる地域特性の中で、「まなぶ」「はたらく」という部分をキーワードに、今後も若者の課題解決に向け活動を進めてまいります。

認定特定非営利活動法人 Switch 事務局長 今野純太郎

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
会費収入	245,000	35,000	105,000	105,000	105,000
寄付金収入	105,000	256,000	704,000	984,868	2,520,847
助成金・補助金収入	1,270,332	8,797,281	8,988,565	16,607,581	19,032,983
事業収入	40,517,154	49,943,928	68,382,230	58,795,494	71,929,393
その他収入	1,079,191	1,146,296	1,146,768	2,496,666	1,706,065
<b>経常収益合計:</b>	<b>43,216,677</b>	<b>60,178,505</b>	<b>79,326,563</b>	<b>78,989,609</b>	<b>95,294,288</b>
事業費	12,869,431	871,303	2,899,731	2,379,893	587,000
管理費	21,477,447	52,545,168	79,594,877	88,082,568	85,615,035
<b>経常費用合計:</b>	<b>34,346,878</b>	<b>53,416,471</b>	<b>82,494,608</b>	<b>90,462,461</b>	<b>86,202,035</b>
<b>経常増減額:</b>	<b>8,869,799</b>	<b>6,762,034</b>	<b>-3,168,045</b>	<b>-11,472,852</b>	<b>9,092,253</b>
<b>正味財産増減額:</b>	<b>8,869,799</b>	<b>6,762,034</b>	<b>-3,168,045</b>	<b>-11,472,852</b>	<b>9,092,253</b>



## 事業の実施に関する事項

### I. 就労移行支援・自立訓練（生活訓練）に関する事業

#### (1)障害福祉サービス事業所「スイッチ・センダイ」就労移行支援

##### ◆（成果と今後の課題）

スイッチ・センダイでは平成 28 年度 37 名の就職者（A型移行者含む）が出ている。また以前より課題とされている、就労後の定着支援という点では、訪問型ジョブコーチ事業と連携し就職後の定着支援

を行っている。平成 30 年より新設される「就労定着支援」の動向に注視していきたい。

平成 28 年度も継続して仙精連から 2 回目の助成を受け OB 会の実施と OB と利用者が交流できる日を設けており、精神疾患、障害を持ちながら働いている方への、就労定着と余暇支援の一助としている。

全国的に就労移行支援事業所は就労実績が上がらない事業所と就職実績が高い事業所との二極化が課題となっている。仙台市内の就労移行支援事業所は平成 29 年 6 月現在 39 か所あり、社会の雇用ニーズ拡大や障害者法定雇用率の引き上げに対し、事業を開始する事業者も増えていることから、より一層スタッフの資質、サービスの向上、福祉の枠を越えた関わりが必要になってくる。

また、平成 29 年厚生労働省より大学生が就労系サービスを利用できることが明記されたため、大学との連携も行っていく。そのことを受け、法人内他事業との兼ね合いを鑑み自立訓練（生活訓練）は平成 28 年 6 月末に廃止、より就労支援に特化したサービス提供を行っていくことを目指す。

平成 28 年度相談件数（106 件）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
6	48	27	18	6	1

男女比

男性	女性
59	47

紹介元

行政機関	相談支援機関	医療機関	ハローワーク	パンフレット	学校	HP メディア	知人・友人・家族	他福祉サービス	その他
14	11	29	3	7	5	14	9	9	5

その他の内訳

会計士、元利用者、再インテーク
-----------------

平成 28 年度在籍者数

就労移行支援（75 名）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
1	37	18	15	3	1

男女別

男性	女性
34	41

就職者状況（平成 29 年 3 月 31 日）

開示	非開示	合計
15	22	37

OB 会・交流会参加人数（のべ）

金曜日開催	土曜日開催	合計
43	109	152

◆施設内プログラム

- ・ウォーキング・アートプログラム・CBT（認知行動療法）・PC 講座・就活講座・コミュニケーション

ン講座・ジョブコーチと話そう・パンフレット封入作業・ヨガ・OB交流会等  
コミュニケーション講座



OBと利用者の交流会



避難訓練実施の様子



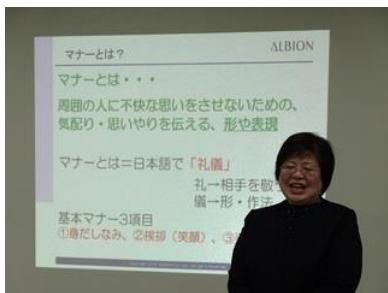
◆外部講師を招いての特別講座

- ・就活ボイス講座・アロマ講座・歯と口の健康づくり
- ・アロマ講座
- ・歯と口の健康づくり



◆外部機関と連携した講座

(株) アルビオンと連携して行った就活メイク・マナー講座



スイッチ・センダイ 管理者 山下祐史

(2)障害福祉サービス事業所「スイッチ・イシノマキ」

◆（成果と今後の課題）

石巻にて開所して 2 年目となる。今まで石巻になかった新しいタイプの事業所として徐々に認知されてきている。特に医療機関からの紹介が多く、圏域の医療機関からの期待感を感じる事ができる。

インテーク数に対して新規登録に至る人数が少ないが、自立訓練（生活訓練）の性質上、就労目的のみの利用者等は地域の他機関にリファーするケースも多い。

28 年度は就職者 2 名（開示 1 名、非開示 1 名）を出すこともでき、地域からも一定の評価を得る事ができた。

4 月時点での登録者は 10 名と前年度より増え、事業所レイアウトの変更を行っている。

最終的な目標として就労を希望される方も多く在籍されている事から、就業・生活支援センターや地域の相談支援事業所との連携を密に取る事で強化することができた。

また、市の生涯学習課のプログラムを利用し、外部の方が講師を務めるプログラムの実施や、夏季には市の施設を利用したレクリエーション企画。利用者が主体となって企画、実施を行う自主活動など、バリエーション豊富に、地域と関わる機会や自主性、個別性を創出することができている。

課題としては、今後より多様なニーズが想定されるなかで、自立訓練としての領分をわきまえながらも、生活リズムを作る、入浴や排せつ等の従来の訓練以外の柔軟な利用が可能になるよう、この 2 年のスイッチ・イシノマキでの活動の成果や可能性をもとに、市をはじめ圏域に働きかけていく必要があると考える。

◆実績

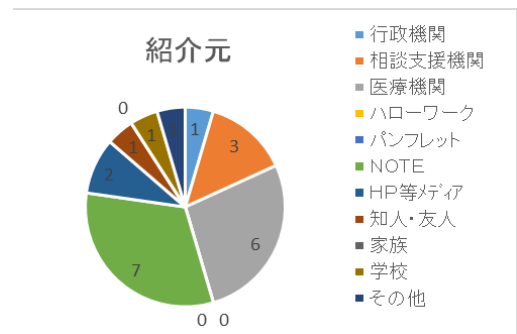
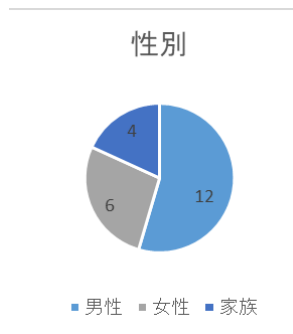
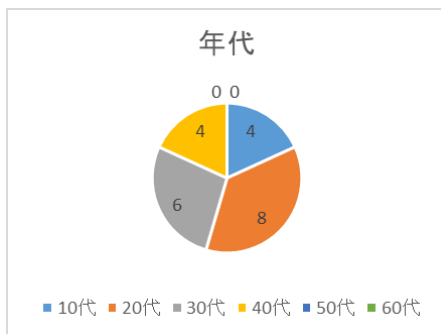
登録者数	10 名（29 年 4 月末時点）	
新規利用者数	9 名	
インテーク者数	22 名 ※内訳は下記表参照	
退所者数	7 名	目標達成 3 名（就職・・開示、非開示各 1 名、地域移行 1 名）
		体調不良 4 名（入院 2 名、療養 2 名）

28 年度は就職による退所者が 2 名おり、自立訓練から就職者が出る事に対して地域から驚きの声が聞かれた。同時に、活動開始時の目標を達成したため地域の他機関を利用しながら生活する退所者もあり、従来の自立訓練（生活訓練）としての機能を果たしている事の証明にもつながっている。

## H28年度(H28年5月～H29年4月) インテーク総数

インテーク総数	22名	左記の内利用につながった人数	9名 (41%)
---------	-----	----------------	----------

内訳										
年代						性別				
10代	20代	30代	40代	50代	60代	男性	女性	家族		
4	8	6	4	0	0	12	6	4		
紹介元										
行政機関	相談支援機関	医療機関	ハローワーク	パンフレット	NOTE	HP等メディア	知人・友人	家族	学校	その他
1	3	6	0	0	7	2	1	0	1	1



### ◆活動内容

NOTE をきっかけに、通所に繋がった方が 1 番多いが、ほぼ同数の医療機関からの紹介があり、医療機関からの期待が伺える。

#### 【個別ワーク】

- ・ 個別の自立の為の目標を達成するために、各々に必要な活動を取り入れ積極的に行っていく活動。

#### 【プログラム】

- ・ 体調管理系のプログラムや、就職活動系プログラム、金銭プログラム等により、自己理解、目標達成の為のスキル、生活スキル向上の為のプログラムを実施。またファームを利用したアセスメントと余暇活動の実施。

#### 【外部講師】

石巻市：市立病院薬剤師による薬の飲み方 歯科医による訪問歯科検診  
メイクマナー講座



薬剤師による薬の飲み方講座



歯科検診

### 【自主活動】

・利用者の自主性や、希望等を形にする過程の確認、他者との協働作業等を体験できる機会として活用。トレッキングや花見、調理プログラム等実施

その他、季節等に合わせた行事等を行い、楽しみながらも一人ひとりの自立に向けた活動を行っている。同時に、実施者の興味関心に基づくプログラムになる為、自己肯定感の向上につながっている。



鱈鍋作り



市民公園でのバーベキュー



ごはんのお供ソムリエ

### 【その他の活動】

卒業後の活動場所の一つである他事業所の見学会や地域の活動補助として七夕飾り作りやお祭り運営の手伝い等、事業所外に出での積極的な地域活動を実施。



事業所見学



七夕飾り作り



福祉祭りの手伝い

スイッチ・イシノマキ 管理者 田口雄太

## Ⅱ 思春期・青年期を中心とした就学・就労支援

### (1)ユースサポートカレッジ 仙台 NOTE

#### ◆成果と今後の課題

今年度も昨年同様「みやぎ地域復興支援助成金」による『みやぎの「はたらく」「つながる」応援プログラム事業(第二期)』にて、①被災者就労準備支援事業②中間的就労創出事業③出張型就労支援事業の3つの柱を軸に、圏域の被災若年者への就労支援事業を実施した。

具体的には昨年に引き続き宮城野区榴岡の「仙台NOTE」を拠点とし、思春期や青年期の不調を抱えた10代から30代の若年者を対象に包括的就労支援を行うユースサポートカレッジを設置。4ヶ月間を1ターム



とした短期集中型の就労支援プログラムを2期に渡り実施、32名の受講生に対し42.4%が就職、15.2%が就学復学を遂げ、24.2%が就職活動に一步踏み出し現在継続して活動中ということで、全体の80%が就労に向けての動きを加速することができ、一定の成果を上げることが出来た(①②事業)

出張型就労支援においては、震災から6年が経過し仮設住宅から復興公営住宅への移転が進む中、次なる段階として長期的な生活の見通しを立てるためには就労の安定が必要不可欠であり、ニーズの多い6地域に渡り、近隣のハローワークに行くまでに物理的・精神的に距離を感じている方々に対し、居住エリアの近くで出張パソコン講座と個別就労相談を展開した。

具体的には宮城県社会福祉協議会震災復興支援局と協働し、地域社協(気仙沼市社協、多賀城市社協、塩釜市社協、七ヶ浜市社協、石巻市社協、東松島市社協)とのパイプを作った。又昨年実績のある仙台市社会福祉協議会中核支えあいセンターと連携し、復興公営住宅の見守り支援の流れの中で就労に課題を抱える被災者の支援を行った(③事業) 震災を機にひきこもりがちになり社会と接点を持たない被災者や、就労の機会を失ってしまった若年層に社会と繋がるきっかけを作り、学びの場を提供し就労への意欲を高めるといふ意味で、一定の成果を残すことができた。

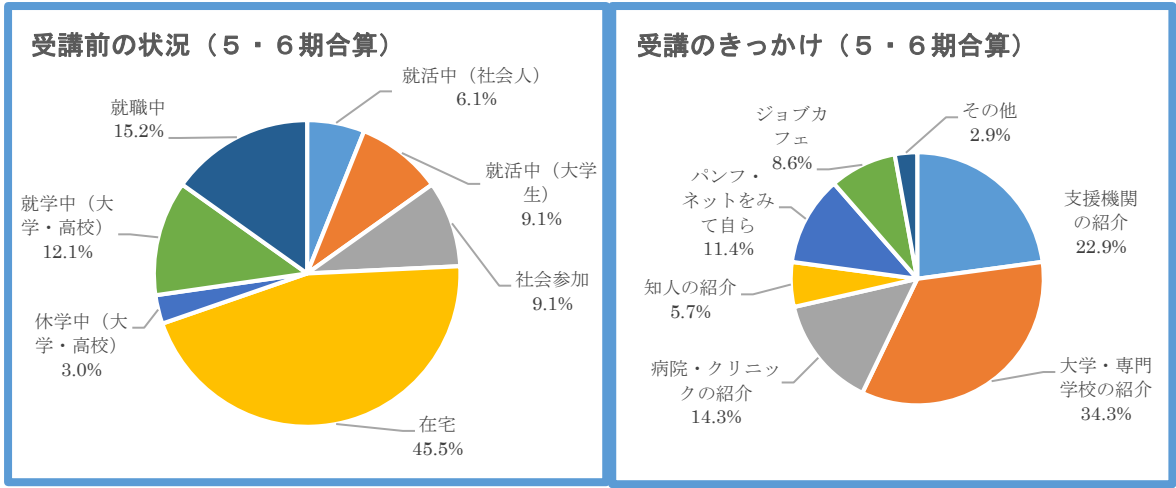
今後の課題としては、1つ目は大学生の利用が増えている背景から、グレーゾーンの学生や休学中の学生に対する就労支援、中退予防支援に関する大学との連携強化と、受入に伴うインターンシッププログラムの強化が上げられる。2つ目は出張型就労支援の強化である。昨年実施する中で、ひきこもりがちになる無業者が再び外に出るきっかけとしてパソコンは有効な手段であり、各地域の支援機関からも今年度の開催に対するご要望の声を頂いていることからニーズは高く、就活情報に乏しい被災圏域に対する支援を強化していく。

#### ◆ユースサポート事業(被災者就労準備事業・中間的就労創出事業)

- 利用者数 35名(延べ人数973名)
  - 5期生(平成28年 6月 1日～平成28年9月30日):18名
  - 6期生(平成28年10月11日～平成28年2月24日):16名
- 就職決定者数 14名(昨年度13名)
- 相談件数 324件(目標 180件)
- キャリアカウンセリング件数 147件(目標 180件)
- 企業開拓 8件(昨年度12件)
- 仙台NOTEパンフレット 2000部制作



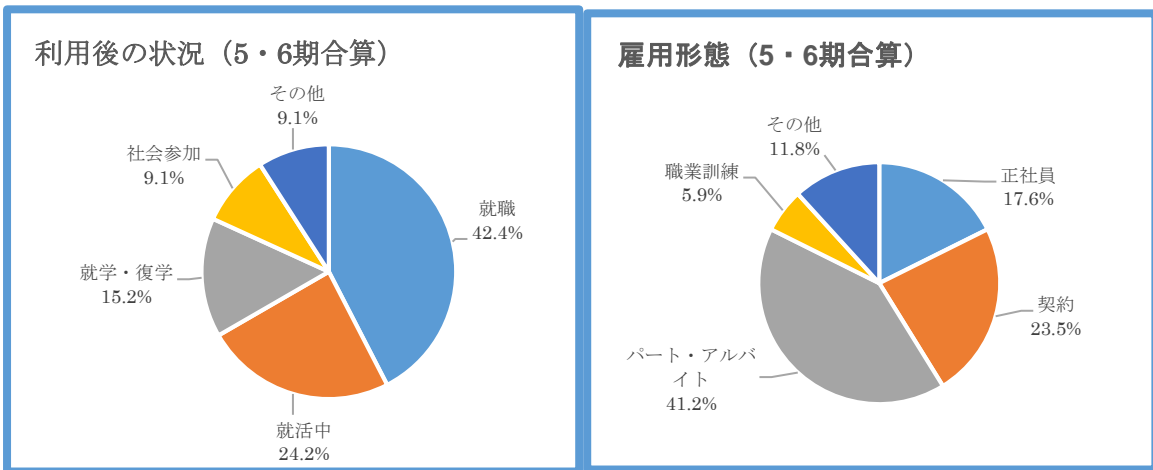
#### ■受講生の状況(利用前)



- ・社会参加とは週2回程度の外出、在宅とはそれ以下で在宅中心
- ・就学中（大学・高校）とは休学中または不登校における学校配慮制の元での登校

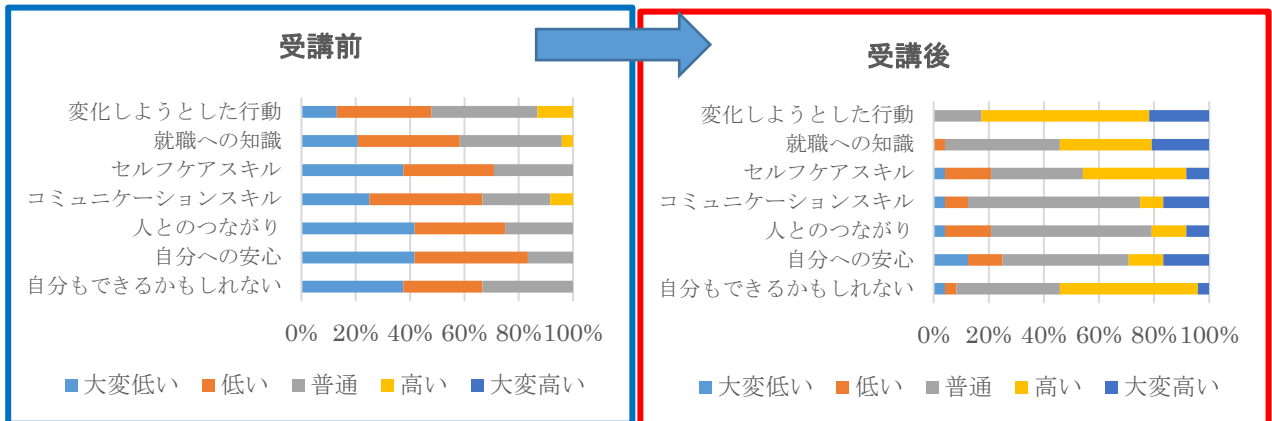
- ・大学や専門学校などからの紹介が増えている。
- ・支援機関とは行政（ハローワーク・生活保護課・社会福祉課）、社協・保護観察所等

**■受講生の状況(利用後)**



- ・受講生全体の8割が就職・就学復学・就活へのアクションを開始
- ・就職者14名のうち約4割が正社員・契約社員にて採用

**■受講前と受講後の変化について（修了時アンケートより）**



**■具体的な活動内容**

【Discoveryコース】講義形式で就活・就労への基礎力をつける。生活のリズム作りにも効果大であった  
・オリジナル講座

認知行動療法・メンタルヘルス・コミュニケーション講座(ソーシャルスキルトレーニング)・WRAP・  
就活講座・ソーシャルマナー講座・パソコン講座(若者アッププロジェクト・フリーレッスン)・アートセラピー・入門ヨーガ・ビブリオバトル・LEGO シリアスプレイ



・特別講座(自分磨き)

就活カラー講座(外部講師)、アロマセラピー講座(外部講師)、ボイストレーニング講座(外部講師)  
スノードームワークショップ、体を知ろう! 講座、インターン生による中国語講座・栄養講座



【WorkOnコース】 インターンシップ延べ参加人数 236 名。

目標180名を大きく上回る結果となり、就労意欲の向上に大きく貢献できた。実習先は17件。

- 不動産会社:事務補助 ■物流会社:事務補助・倉庫業務 ■飲食店:調理補助・接客
- 高齢者介護施設(デイケア・老健):介護補助 ■社会人資格取得専門学校:事務補助・ポスティング
- 営業マーケティング会社 ■農業:農業体験 ■ART活動NPO法人 ■福祉事業所 ■警備会社



【受講生による活動報告会】

4ヶ月の受講期間を振り返り、自由なテーマで自身の活動内容を報告する  
卒業発表会を実施。堂々とプレゼンテーションをする姿に大きな成長が見られた。



【仙台 NOTE サロン(親の会)の実施】

仙台 NOTE での活動報告を行い、保護者の方々との交流の場を設けた。



◆出張型就労支援事業(被災地向け出張パソコン講座)

ニーズのある被災圏域にて出張パソコン講座とお仕事相談会を実施。

震災を機にひきこもりがちになり社会と接点を持てず、そのまま就労の機会を失ってしまった若年者を中心に、社会と繋がり学びの場を提供するきっかけを提供。一定の効果を残すことができた。

一例として、震災を機に高校卒業後から長年引きこもっていた若者が、出張パソコン講座の参加がきっかけでそこから仙台NOTEの利用に繋がり、自立に向けての訓練や職業体験を通して就職活動へ一歩を踏み出すことができたケースは、事業目的に叶った成果であり、まだまだ活動の需要はあると実感している。

### ①仙台地区

実施日時：平成 28 年 10 月 5 日・12 日・18 日・26 日

実施場所：仙台市福祉プラザ

実施内容：Word・Excel・Powerpoint・個別お仕事相談

述べ参加人数：PC 講座 24 名・個別相談 3 名

協力団体名：仙台市社会福祉協議会中核支え合いセンター（共催）

※この後、仙台市の復興公営住宅と地域のコミュニティ活性化のための「つなぐ・つながるプロジェクト（つなぶろ）」支援団体に登録される



### ②石巻地区

実施日時：平成 28 年 12 月 26 日・27 日・28 日・平成 29 年 1 月 5 日

実施場所：ユースサポートカレッジ石巻 NOTE

実施内容：Word・Excel・Powerpoint・プログラミング・個別お仕事相談

述べ参加人数：PC 講座 10 名・個別相談 1 名

協力団体名：石巻市教育委員会（後援）・石巻市役所（生活保護課・生活再建支援課他）  
石巻ハローワーク・宮城県東部児童相談所・石巻市社会福祉協議会 他



### ③多賀城・塩釜・七ヶ浜地区

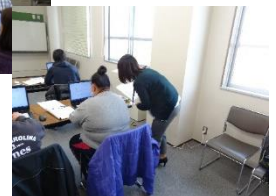
実施日時：平成 29 年 1 月 12 日・13 日・20 日・2 月 3 日

実施場所：多賀城市市民活動サポートセンター

実施内容：Word・Excel・Powerpoint・個別お仕事相談

述べ参加人数：21 名・個別相談 5 名

協力団体名：多賀城市社会福祉協議会・塩釜市社会福祉協議会・七ヶ浜市社会福祉協議会・多賀城・塩釜・七ヶ浜各市役所（社会福祉課・保護課・地域職業相談室等）・各ハローワーク等



#### ④岩沼地区

実施日時：平成 29 年 1 月 16 日・23 日・30 日・2 月 6 日・7 日

実施場所：岩沼市福祉センター i あいプラザ

実施内容：Word・Excel・Powerpoint・個別お仕事相談

述べ参加人数：PC 講座 4 名・個別相談 1 名

協力団体名：岩沼市社会福祉協議会（共催）



#### ⑤東松島地区

実施日時：平成 29 年 3 月 9 日・10 日・13 日・14 日

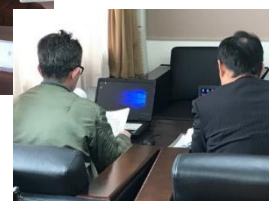
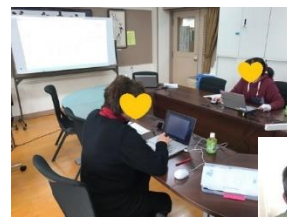
実施場所：東松島市老人福祉センター

実施内容：PC 入門・Excel

述べ参加人数：7 名

協力団体名：東松島市社会福祉協議会・東松島市役所

ハローワーク等



#### ⑥気仙沼地区

実施日時：平成 29 年 3 月 17 日

実施場所：スクエアシップ（気仙沼 海の市）

実施内容：パソコン入門・Excel

述べ参加人数：6 名

協力団体名：気仙沼市社会福祉協議会（後援）

NPO 法人底上げ・気仙沼市役所・ハローワーク等



認定特定非営利活動法人 Switch 常務理事 小関美江

#### (2)ユースサポートカレッジ 石巻 NOTE

##### ◆（成果と今後の課題）

当法人は平成 25 年から石巻市にて「ユースサポートカレッジ石巻 NOTE」を展開し「未来志向型インターンシップ」を開始。震災からの復興を目指す地域の企業や、農林水産業、そして地域行政や他の支援団体と連携を進めながら、石巻圏域にてこころに不調を抱えた方々の就労支援を展開してきたが、活動を進める中で、以下の新たな課題が見えてきた。そのひとつが社会的弱者の存在である。わたしたちの支援のベースは、困難を抱える若年者の就労支援に特化しているものの、そのご家族の背景を伺うと、震災後、無業者になったままの保護者がいること、そのメンタルサポートが取り残されたままであることから、地域の団体と連携を図り若者を支えるソーシャルワークの観点で彼らを支える仕組みが必要となる。それらは当法人の強みでもあることから、以下の支援事業を展開してきた。

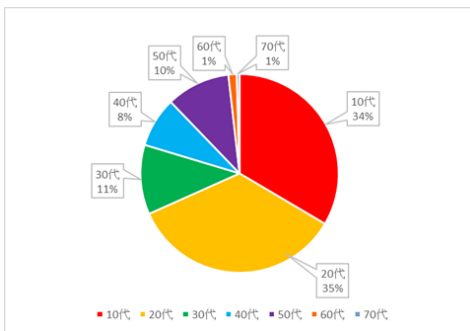
①東日本大震災によってところに不調を抱えたり、社会的居場所を失った若者が、震災後の深刻な人材不足に悩む地域産業の将来的な担い手として活躍できるよう、インターンシップを通して育成していくことを目的とする。

②就労支援を通じて、家族を包括的に多職種・多団体で支えるネットワーク機能を強化

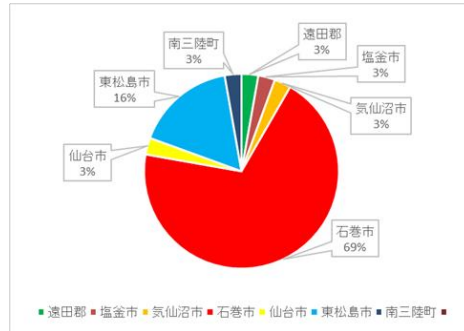
③地域産業の力を活かした人的資源の活用をしながら、伴走型職場体験の機会をさらに拡大、被災地における就労支援モデルを確立させる。

上記の取組みを通して、被災地特有の就労課題を抱える石巻圏域にて、今後も長期的な若年者就労支援体制の構築を持続する。

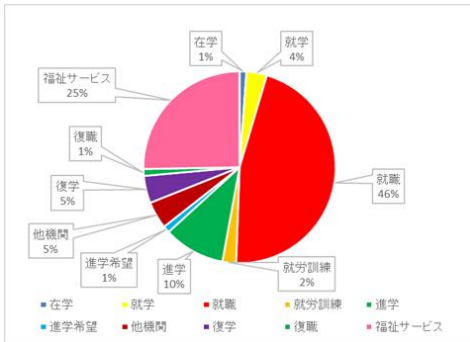
■ 利用年齢層



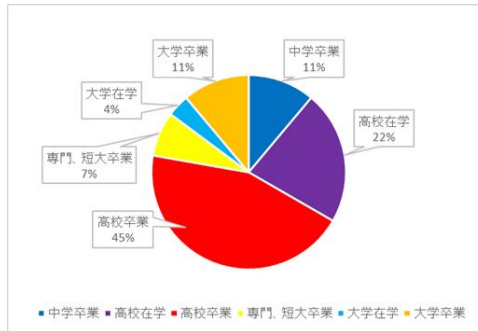
■ 利用者の地域属性



■ 利用後の進路



■ 通所時の学歴



【コンポーネント1】就労準備支援

目的

- ・圏域無業者と人材不足に悩む地元企業とのマッチング
- ・就職活動に踏み出すことを躊躇する無業者が活動を再開する事。

就労準備支援事業に関しては、石巻駅前にて、日常的に就労相談が出来る窓口を設置し、利用者数 1343 名と、多くの方に利用いただき、17 名の就労決定者を出すことが出来た。

事業の中では相談だけではなく、震災の影響で引きこもりがちになる方々に対し、一步踏み出すためのプログラムも展開し、合計 354 名の方々に受講いただくことが出来た。

## ① 一歩踏み出すためのプログラムの展開

・パソコン講座 202回:日本マイクロソフト様からのライセンス供与を受け、認定トレーナーによる講座を展開。終了後に資格取得を目指す方も多かった。Windows10,Office2013 という最新の環境でプログラムを実施。パソコンを学ぶことを外に出るきっかけにすることが出来た。

・アートセラピー講座 37回:ただ単に絵を書くだけのプログラムではなく、イラスト鑑賞なども取り入れ、より本人たちの志向に合わせるプログラムの展開を目指した。

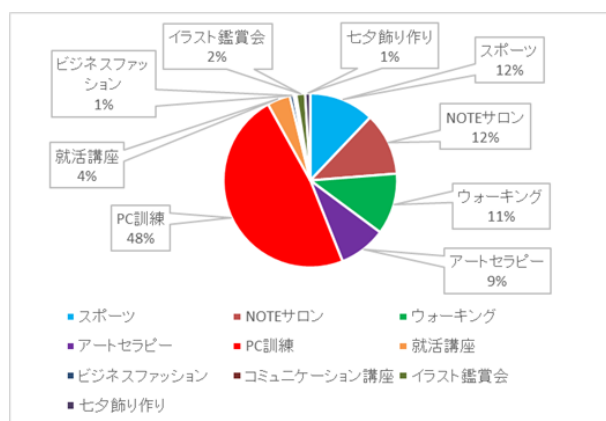
・就活講座 18回:就活で必要な基本的なスキルや、面接対策などを、総合的に学び、その後の就労に繋げることが出来た。

・ウォーキング講座 48回

今年度もウォーキングを展開。市内中心部を中心に取り組むことが出来た。

・NOTE サロン 49回

今年度は新たな取り組みとして NOTE サロンを企画。利用者が車座になり、それぞれの近況を話し合うことで、コミュニケーション力の強化を図ることができた。



## ② インターンシッププログラムの展開

・インターンシップ実施件数 149件

インターンシップは石巻市内の支援団体や民間企業などにて、職場体験の機会をつくり、今回 149 件のインターンを実施することができた。

一般企業だけではなく、仮設住宅における新聞配布や、被災地での雇用創出のための弁当店など、被災地支援事業にも関わることで、利用者も地域の実情を知ることが出来、自分たちの住む地域の未来を考えるきっかけになったと考えている。



### ③有給職業体験プログラムの展開

#### ・有給職業体験プログラム実施件数103件

今回有給職業体験に関しては、103回という実績を上げることが出来た。実際の企業の中に入り、有給で仕事を体験する中で、そのまま長期雇用につながった方も多く、就労支援という観点からも実効性は高かったと考えている。今後も現在就労中の方のフォローアップを進めていくこととする。



### 【コンポーネント2】中間就労の創出

#### 目標

①定期的に中間就労の場で活動することで就労意欲を醸成する。

②中間就労の場で自己肯定感を高めたのちに一般就労を目指す。

今回は農業と水産業の現場にて、中間就労の場を展開することが出来た。

農業:391回

水産業:22回

インターンなどの単なる職場体験ではなく、多少なりともお金が発生することで、本人たちの責任感の向上が促された。





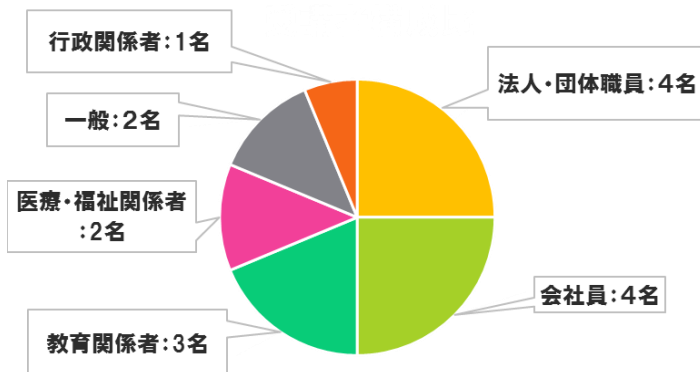
### 【コンポーネント3】いしのまきはたらくサポーター養成講座の開催

#### ①こころの健康を学ぶ講座 全7回実施

「心の健康を学び、自身のセルフケアを考える。」

#### 講座内容

- ・ストレスコントロール
- ・自分の考え方のクセを知る
- ・睡眠、仕事と休暇のワークライフバランス



#### ②ジョブコーチによる職場で働く方々へのサポート講座

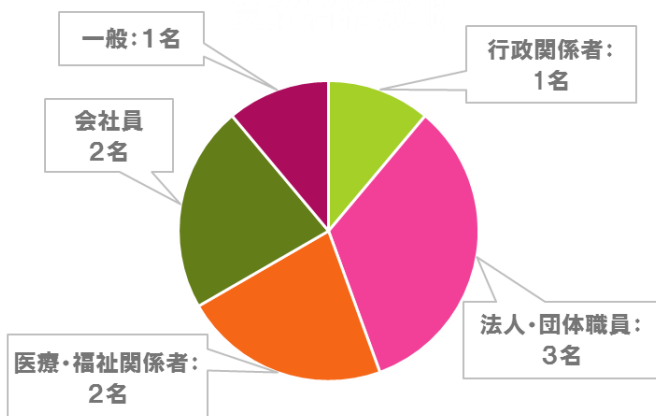
ジョブコーチのスキルを参考とした職場でのサポート。

人材育成の一環としてスキルアップ。

#### 講座内容

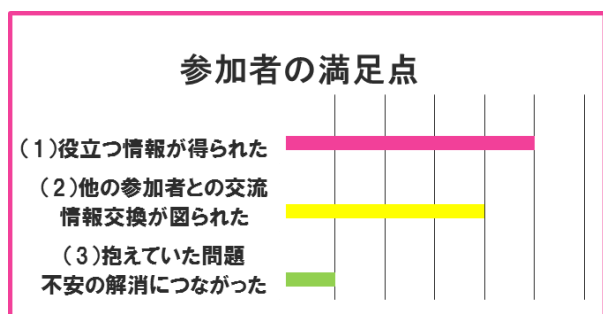
- ・合理的配慮
- ・相手の立場に立ってわかりやすく教えるスキル

・グループワーク(課題分析と問題解決)



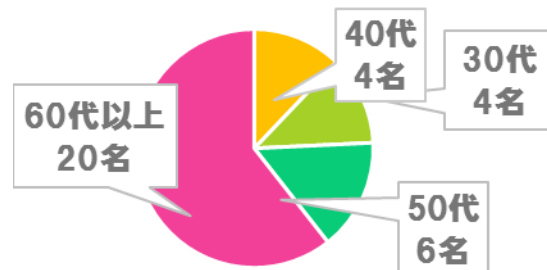
③コミュニティワーク実践講座

縁あって石巻に移住し、各分野・立場で活躍されている方々をお招きし、「なぜここで働いているのか」をテーマに“はたらく”を考える場を展開



#### ④移動なんでもよろず相談所 全 12 回開催

石巻圏域各所にて、移動式の相談所を展開。震災後の家族、進路、仕事、人間関係などの悩みを受付、傾聴する。



### 家族、人間関係

- 子どもの進路への不安・心配（学力・人付き合い）
- 家族・職場等、他者とのやりとりへの疲弊感の吐露

### 震災後の生活状況の変化

- 独居による孤独感と外部との関係性の希薄化
- 自分自身のこれからの生活、身体・体調への不安

### 相談先がわからない

- 自身の問題に活用できる地域資源かがわからない
- 場所が近い、知り合いがいる→周囲に噂が広がる不安感

#### ⑤いしのまきはたらくサポーターセミナーの開催

～地域で多様な人びとが働き続けるために私たちができること～

「その島のひとたちはひとの話を聞かない」の著者でもあり、

精神科医として地域に根差した活動を行っている森川すいめい氏をお招きし

会全体でオープン・ダイアログを展開しながら、参加者同士で意見を出し合い深めた。

認定特定非営利活動法人 Switch 常務理事 今野純太郎

### Ⅲ 研究・研修事業

#### (1)各種研修

H28年8月 認知機能リハビリテーションと就労支援研修会 in 帯広 講師 (小野)

H28年12月 宮城県サービス管理責任者講習会 講師 (小野・田口)

H28年度 NPO 法人アスイク 支援スーパービジョン 12回実施 (対象スタッフ3名)

#### (2)職員研修

29年度は職員研修を4回実施した。今年度より、研修ワーキンググループを作り、ワーキング内で法人スタッフとして必要な研修を企画、実施した。また、ワーキンググループより、佐藤・小野寺が精神障害者リハビリテーション学会への口頭発表も実施した。

##### ① 「宿泊研修」 28年6月10日～11日 14名参加

場所：箱根山テラス (陸前高田市)

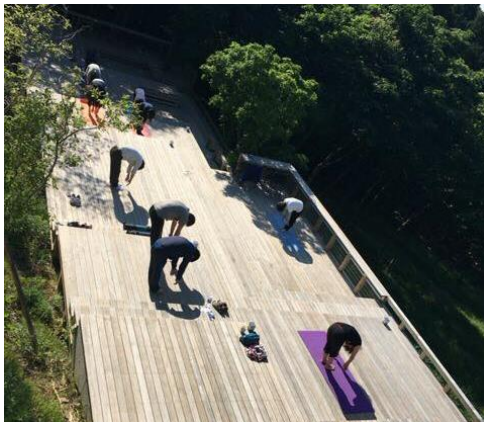
1日目：地域のNPO活動を知る

講師 ・箱根山テラス 代表長谷川氏

・吉田理事 特定非営利活動法人くらしのサポーターズ 事務局長  
三重県の事例の紹介

2日目：・広報、ファンレイジング、研修のワーキンググループ活動

・法人のミッション再確認



##### ② 「自己探求からの相互理解」 ワーキンググループ主催 28年9月14日 17名参加

・自分史の作成、転機になる写真や物を持参し、全体共有

進行：小野

##### ③ 「事例検討会」 28年12月9日

講師：みやぎ心のケアセンター 地域支援部長 福地 成 先生 (精神科医)

参加者：16名

事例提出者：

① 「活動量が多いが就労に踏み出せない成人女性への働きかけ」 石巻NOTE 高坂

- ② 「調子が悪くなる可能性があるが、伝える必要がある場合、どのように伝えればよいか」  
スイッチ・センダイ坂下

事例へのSVと講師より「対人支援の勘どころ」の講義

- ④ 「調理実習」 ワーキンググループ主催 29年3月3日  
場所：エルパーク仙台 調理室 参加者 15名  
3班にわかれ、予算内で買い物から調理までを担当。



28年度 研修ワーキングメンバー 小野、佐藤、小野寺、坂下、坂上

#### (1) 学会、講演など

H28年7月 福祉人材フォーラム 登壇（高橋）

H28年10月 書籍：Q&Aで理解する就労支援IPS ～精神疾患がある人の魅力と可能性を生かす就労支援プログラム（山下・田口 執筆）

H28年10月 精神科臨床サービス第16巻3号～認知機能リハビリテーションは就労支援にどのように役立つのか～（小野寄稿）

H28年10月 明治大学 公共経営学科 特別講義（高橋）

H28年11月 第24回精神障害者リハビリテーション学会 口頭発表（佐藤・小野寺）

H28年11月 第24回職業リハビリテーション研究・実践発表会 口頭発表（小野）

H28年11月 就労支援IPS協働学習会（東京）登壇（山下）

H28年11月 第55回宮城県精神保健福祉大会 シンポジウム登壇（高橋）

H28年12月 石巻の明日を創る！「ともいき」シンポジウム～復興支援から困窮者支援へ～  
パネリスト（今野）

～H29年2月 宮城教育振興審議会審議委員（高橋）

H29年2月 石巻教育セミナー 石巻専修大学 パネリスト（今野）

H29年3月 働く精神障害者からのメッセージ発信事業 パネリスト（小野）

H29年3月 第5回「みちのく復興事業シンポジウム」登壇（高橋）

H29年3月 日本社会精神医学会 ポスター発表（高橋）

#### IV 学校メンタルヘルスリテラシー教育における授業の実施

主体：みやぎこころのデザイン教育実行委員会（SCOPE）

宮城県協働教育プラットフォーム事業の委託を受け、県内小・中・高校でのこころの健康を学ぶ授業を実施、評価委員の設置に伴う評価委員会なども実施してきた。

石巻高等学校 3 学年授業



玉浦小学校での授業風景



依頼校の授業実施 2016年7月～11月の状況  
依頼を受けた学校へ事前打ち合わせを行いながらキストの作成をする。授業実施においては、  
クラス単位、学年単位、学校単位などの要望を聞きながらすすめていく。

【実施校】

岩沼市玉浦小学校 栗原市瀬峰中学校  
塩竈市玉川中学校 宮城県石巻高等学校

また、授業参観による保護者も同席の授業実施を増やしていくためのアプローチも行っていった。

◆瀬峰中学校にて授業参観実施（全校生徒対象）

市町や社会福祉協議会との協働事業の実施 2016年11月

福祉教育の一環で実施する市町については、社会福祉協議会などと、協働で実施する予定。

それによって、地域住民もサポーターとして参加しやすいワークショップ形態となる。

◆岩沼市と社会福祉協議会にて福祉教育の一環として実施（4年生対象）

◆ これからの学校メンタルヘルス教育セミナーの実施

平成29年2月4日 東北電子専門学校 参加者数 45名

講師：阪中 順子氏（四天王寺学園 スクールカウンセラー 臨床心理士）



## V その他事業

### (1) ジョブコーチ支援事業

#### (1) ジョブコーチ支援事業

実績【H28年4月～平成29年3月】

新規実施件数 9件

継続実施件数 4件

支援回数 183日

平成28年度 訪問型職場適応援助者の登録 小野、越後、三上

今年度は、13名の対象者、12事業所に訪問型職場適応援助者による支援を183日実施した。新規ケースでは、宮城障害者職業センターとのペア支援が3件実施、他6件は法人単独支援で実施した。

昨年度より訪問型職場適応援助者による職場定着支援に力をいれており、今年度でその基盤が固まった。平成30年に開設されることが決まった障害福祉サービス事業の「就労定着支援事業」を睨み、法人内ではさらにジョブコーチを増やし、多くの需要にこたえられるように整備していく。

ジョブコーチは、訪問型職場適応援助者としての活動のみならず、法人内の実習観察や職場開拓など、そのスキルを法人にかかわる対象者全てに活かすことが次年度の目標とする。

## (2)助成事業

### ○住友商事株式会社

#### 東日本再生ユースチャレンジプログラム

- ・インターンシップ奨励プログラム（平成28年7月～平成29年3月）

### ○ジャンププラットフォーム「共に生きる」ファンド

#### ～いしのまき若年者未来志向型インターンシップマッチング事業～

### ○宮城県地域復興支援助成金

#### ～みやぎの「はたらく」「つながる」応援プログラム事業～

### ○日本マイクロソフト社「若者UPプロジェクト

- ・宮城県内各所にて開催

### ○復興庁「こころの復興事業」

- ・いしのまきフードアクションプロジェクト

### ○宮城県共同参画社会推進課

- ・NPO等の絆力を活かした復興、被災者支援事業

## (3)委託事業

### 東北工業大学ライフデザイン学部 安全安心デザイン学科2年生対象

- ・キャリアデザイン講座（生活デザインセミナーⅢ）全14回（前期7回、後期7回）

### 宮城協働教育プラットフォーム事業（みやぎこころのデザイン教育実行委員会 SCOPE）

実施校4校 評議委員会2回 教育セミナー1回 実行委員会6回

## (4)その他

### 【研究協力】

・文部科学省若手研究(B)「日本版IPS／援助付き雇用フィデリティ尺度の検証とフィデリティ評価システムの構築」スイッチ・センダイ 参加

### 【実習等】

- ・仙台市教育委員会 東華中学校 職場体験実習 2名受け入れ

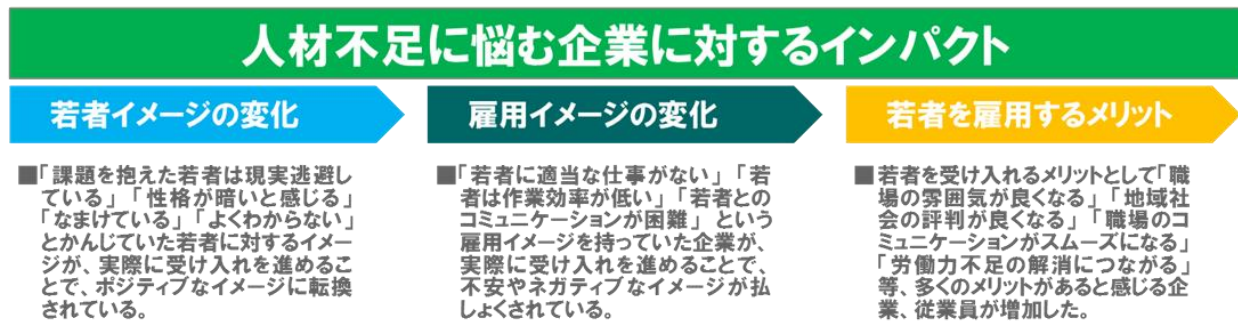
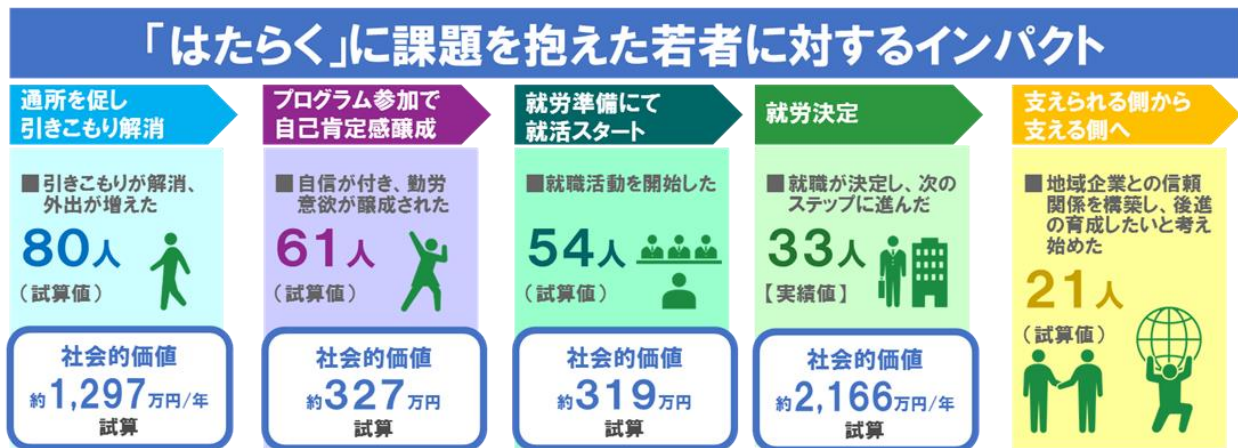
- ・精神保健福祉士実習

東北文化学園大学4年2名、東北福祉大学4年1名 受け入れ

・内閣府「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」事業参加

■今年度、NPO 法人 Switch は内閣府による 「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査事業」に参加。これまで展開してきたユースサポートカレッジ石巻 NOTE 事業のうち、平成 26 年度、27 年度の事業評価を行うことが出来た。最終的なインパクト評価はインパクトレポート資料を確認いただければと考えているが、大まかなインパクトは以下の通りとなる。

今回の評価を行うことで、これまで展開してきた石巻 NOTE 事業の社会的インパクトを評価することが出来た。仙台と東京都内で報告会を行い、2 か所で 200 名程度の動員があった。



○内閣府

(5)メディア等掲載

平成 28 年 5 月

月刊支え合い情報に法人の活動が紹介されました

平成 28 年 5 月

河北新報に「こころの健康ワークブック」の記事が掲載。

平成 28 年 6 月

いしのまき NPO 日和に石巻 NOTE が紹介されました

平成 28 年 6 月

石巻日日新聞 NPO 日和に石巻 NOTE の活動が掲載されました

平成 28 年 7 月

河北新報に代表高橋のエッセーが掲載されました。

平成 28 年 7 月

ダイヤモンドオンラインに法人の記事が掲載されました



---

平成28年8月

河北新報に代表高橋のエッセーが掲載されました。

平成28年10月

精神科臨床サービス第16巻3号に常務理事小野が執筆しました

平成28年10月

Q&A で理解する就労支援 IPS にスイッチ・センダイから山下と田口が寄稿しました

平成28年10月

河北新報（夕刊）に代表高橋のエッセーが掲載されました。

平成28年11月

社の伝言板月刊ゆるる 11月号に代表高橋が寄稿しました

平成29年3月

いしのまきはたらくサポーターセミナーが石巻かほくに掲載されました

平成29年4月

社の伝言板ゆるるに事務局長今野が執筆しました

平成29年4月

働く先輩・企業からのメッセージ集に統括マネージャー小野が執筆しました

特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲	支出額 (単位：千円)
定款第5条の(1)障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に関する事業 ①自立訓練（生活訓練） ②就労移行支援事業						
障害福祉サービス事業	スイッチ・センダイ 就労移行支援事業	平日 土日 (適宜)	当法人 事業所内	9名	障害福祉サービス受給者証取得者 定員26名	3234
	スイッチ・イシノマキ 自立訓練（生活訓練）における事業	平日	当法人 事業所内	5名	障害福祉サービス受給者証取得者 定員20名	1072
定款第5条の(3)就学支援事業 (4)カウンセリング事業 (11)その他法人の目的を達成するために必要な事業						
助成事業	JPF「共に生きるファンド」ユースサポートカレッジ石巻 NOTE の運営	平日 土日	当法人 事業所内 市内	3名 (嘱託含)	東松島市、石巻市内 思春期・青年期	7949
	みやぎ地域復興支援事業 仙台 NOTE の運営	平日	当法人 事業所内 市内	3名 (嘱託含)	仙台市内・岩沼市内 思春期青年期	6937
	ジョブコーチ支援事業	平日	県内事業所	2名	障害者雇用対象者	2381
委託事業	定款5条の(7)インターンシップ事業に関する事業					
	心の復興事業	平日 土日	石巻近郊農地	3名	石巻圏域の被災者	3154
	定款第5条の(6)研修事業に関する事業					
	大学キャリア支援事業	平日	大学構内	2名	大学生80名	357
宮城県協働教育プラットフォーム事業	平日	宮城県内	2名	宮城県内小中高校生徒及び保護者	994	



### 思春期や青年期の不調に向き合い、「働きたい」「学びたい」を応援

ユースサポートカレッジ石巻 NOTE (宮城県石巻市)

#### ポイント

- 震災による新たな環境下での、思春期や青年期の不調に向き合い、行走型支援を展開
- 多くの地元企業の協力を得て、若者の就労を支える

石巻駅から徒歩2分、ピレの3階にユースサポートカレッジ石巻NOTEが、若年層の「働きたい」「学びたい」を支援する場だ。

平日15時から17時まで、利用登録した人たちが出入りして、パソコンの練習や就職活動のためのメイク講座、コミュニケーション講座、ワーキングスタイル、自由作業などのプログラムに自由に参加する。10、20歳代が多く、参加費は無料。ここに通いながら体質を整え、興味のある分野を学ぶ。働きたい人向けには、有給の職場体験プログラムなどを活用し、就労支援プログラムを実施する。

この日は10時から12時にパソコン講座が開かれ、2人が参加。エッセイの表とグラフの作成を学んだ。その一方で、4人がキーボードのテクニックを他の人にも教わっている。入食をとり、午後のお店で就労体験する人もいて、教材やパソコンは、連携する日本マイクソフト社から無償提供されたもの。ここで学んで、アルバイトやオフェイブス

ベテリニスト検定10000点満点で合格した高校生もおり、現在ではアルバイトしながらアロマセラピーを目指して就労中。

この日は、20代は8人、10代代は4人。これらの若者を支えるために、スタッフは、

**思春期や青年期の不調に向き合う**

石巻NOTEを運営するのは、認定特定非営利活動法人「W.I.T.H.」職員のある人たちの就労を援け、2011年3月22日に開設したが、同月11日に東日本大震災が被災し、被災者支援に切り替えて仙台市や石巻市で活動を開始した経緯をもつ。

同年6月に仙台市で精神障害のある人を対象とした就労移行支援事業所「アスィッチセンター」を立ち上げる。一方、石巻市で震災をきっかけに就職を失った若者の目星が立たずに悩む人や、新しい環境に馴染むことができずに学校や職場から足が遠のく若者の存在が気になった。思



常務理事兼石巻 NOTE 統括プロデューサー 今野 純太郎さん

「若者の「働きたい」「学びたい」という

前向きな思いを応援する」

石巻NOTEの14年度の登録者は35人。延べ利用者は300人。その4分の3が就労のための活動だ。メンタルケアに力を入れている。行状は、若者の悩みを聞いて利用を始める人が多く、スタッフの得意分野は、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。

「石巻NOTEには、就労支援だけでなく、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。



石巻NOTEのスタッフと学生が話し合っている様子。

「石巻NOTEには、就労支援だけでなく、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。

「石巻NOTEには、就労支援だけでなく、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。

「石巻NOTEには、就労支援だけでなく、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。

「石巻NOTEには、就労支援だけでなく、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。

**ユースサポートカレッジ 石巻NOTE**

〒985-0825 宮城県石巻市大町1-1-1  
 TEL 0225-25-2525  
 FAX 0225-25-2525  
 E-MAIL info@youth-support-college-iwate.jp  
 URL www.youth-support-college-iwate.jp

「石巻NOTEには、就労支援だけでなく、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。また、メンタルケアや生活支援など。

## 心の病「まず相談を」

### 仙台の有志 中学生向け冊子作成

NPO法人や大学講師らでつくる「みやぎこころのデザイン教育実行委員会」が、中学生に心の健康を保つためのワークブックを発行した。実行委員は「誰かに相談することの大切さを知ってほしい」と訴える。

ワークブックはB5判、カラー29頁。うつ病など心の疾患をイラストやデータを交えて分かりやすく解説している。自分自身で行うストレス対処法のほか、家族や友

東日本大震災で被災した児童生徒の心のケアやいじめ、不登校などの問題を抱える県内の学校現場では、スクールカウンセラーの配置拡充など相談体制の整備が進む。一方で「相談するのは心が弱い人」と考え、悩みを抱え込む子どもも少なくないという。

実行委事務局で、心の病を抱える若者の就労支援を続けるNPO法人Switch（仙台市）の高橋由佳理事長は「若い頃から正しい知識を身に付けることが予防につながる。差別や偏見をなくし、他者に手を差し伸べることもできる」と話す。



実行委が中学生向けに作成したワークブック







# まちかどエッセー

高橋 由佳



秋の夜長、日の沈む時間が早くなってきました。私たちの周りには「夏やすくなってきた」といふ声を聞くことができます。しかし日本人的には「人主不眠や睡眠の質の問題を抱えている」というデータがあります。

## 秋の夜長と睡眠

また、日本人の睡眠時間、短さは、世界トップクラスなのです。確か、時々「布団に入ってから3時間は寝られない」「眠りが浅いのか何度も起きてしまう」との声も聞くので、悩んでいる方が多いのかなと感じては、どちらかというとロングスリーパーかなと思っています。睡眠は人生の80年を占め、26・7年は眠ってしまっている。睡眠を促す重要な役割を担っています。閉口を感じたり、夜は強い光をあまり浴びないようにしたりすると、寝ている間にメラトニンが分泌され、睡眠の質が落ちていきます。そうすると、人間の体も植物と同じように完全成長が必要なのだろうか？ そう考えています。 (認定NPO法人Switch 理事長)

# 多様性を認め合う社会を目指して

認定NPO法人Switch 理事長 高橋 由佳

「一人ひとりに寄り添って」  
パイカーンとは、パイオとイン  
タインの造語で、神奈川県東部の  
高校教員、高校生カフェ、こ  
かりカフェを運営しているNPO

「試勞」  
「試勞」は、社会福祉協議会（社福協）が主催する、障害者に対する職業体験プログラム。パイカーンもこのプログラムに参加し、パイオとインタインの活動を通じて、障害者に対する理解を深め、社会参加を促すことを目指している。

「パイカーン」の活動  
パイカーンでは、パイオとインタインの活動を通じて、障害者に対する理解を深め、社会参加を促すことを目指している。

「パイカーン」の活動  
パイカーンでは、パイオとインタインの活動を通じて、障害者に対する理解を深め、社会参加を促すことを目指している。

「聴くこと(内的対話)と話すこと(外的対話)を丁寧に分けていく」トム・アンチルセン(矢野隆行)

東日本大震災の支援活動で、ダイや職員らを対象にしたなどに携わるNPOのリー「いしのまきはたらきサポートセンター」に学ぶ

寛容になる大切さを説く

サポーターセミナーに学ぶ

石巻

出席者に活動を展開する上での心構えなどについて説明する森川氏

「地域で多様な人びとが働き続けるためにわたしたちができること」をテーマに、

「支援者は被災者の答えに飛びつこうとするが、本人(被災者)は置いてきぼりになる可能性もある」と指摘。支援活動を展開していく上で曖昧さや不確かなことに寛容になることの大切さを説いた。

行ないたい。労働市場が縮小してきている中で、若者支援の現場から、石巻市で何が起きているのか、そして、これからどうやって支援していくのか、について、石巻市NPO法人Switchの代表理事、今野 純太郎さんに話を聞いた。

●●●地域の多様な主体性を活かす●●●  
 石巻市は、宮城県第一の都市として、古くから高度の都市として栄えてきました。中心市街地は北上川沿いに発展し、商店街も舞台には別の格調とした趣向として発達しました。

●●●仮設住宅と復興の格差●●●  
 平成二十九年三月東日本大震災以降、仮設住宅に入居している若者が

●●●若者たちを地域の担い手に●●●  
 石巻市の若者人口は、震災前の約半分に減少しています。若者人口の減少は、地域の活性化に大きな影響を与えています。

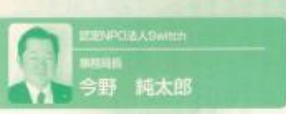
●●●小さなきかけが次の歩み●●●  
 石巻市では、若者支援の現場から、小さなきかけが次の歩みを生み出しています。

●●●環境の活性化と若者の発見の場●●●  
 石巻市では、環境の活性化と若者の発見の場を創出しています。

●●●石巻市NPO法人Switchの活動●●●  
 石巻市NPO法人Switchは、若者支援の現場から、多様な主体性を活かして活動しています。

**石巻市NPO法人Switch**  
 〒982-0852 石巻市東山町1-6-3  
 代表理事 今野 純太郎  
 TEL: 022-762-5851  
 E-mail: info@npo-switch.org  
 URL: http://www.switch-vo.org

# 「7年目を迎えた石巻の就労課題とこれから」 ～若者支援の現場から～



石巻市は、宮城県第一の都市として、古くから高度の都市として栄えてきました。中心市街地は北上川沿いに発展し、商店街も舞台には別の格調とした趣向として発達しました。

●●●仮設住宅と復興の格差●●●  
 平成二十九年三月東日本大震災以降、仮設住宅に入居している若者が

●●●若者たちを地域の担い手に●●●  
 石巻市の若者人口は、震災前の約半分に減少しています。若者人口の減少は、地域の活性化に大きな影響を与えています。

●●●小さなきかけが次の歩み●●●  
 石巻市では、若者支援の現場から、小さなきかけが次の歩みを生み出しています。

●●●環境の活性化と若者の発見の場●●●  
 石巻市では、環境の活性化と若者の発見の場を創出しています。

これから働く皆さんへ  
 認定NPO法人 Switch 常務理事 小野 彩香 様

貴方にとって、働くことはどのくらい先のことでしょうか？  
 自分の思い描いていた人生でなくなった時、どう両入  
 タートを切つてよいのか、誰でも悩みます。ご本人ももちろん  
 そうですし、家族も同じです。特に、旦那様のごほうは薄く、  
 少し長い付き合いになる精神疾患は、上手に付き合えるよ  
 うになるまで、時期がそれなりにかかるようです。



精神疾患がある方の就労支援に特化した「スイッチ」には、  
 年間100名程度の新規相談があります。実際に施設を利用  
 するかどうかは別として、それぞれに療養と人生のスト  
 ーリーがあります。どの方も、紆余曲折を経て、「何とか  
 が働きたい」という強い思いがあることが共通です。

1. 「自分がどうありたいか」を明確に  
 突然ですが、「働くこと」と「幸せなこと」は、共通ではありません。  
 そうです。「働く」を考えたうえで、「一番重要なのは、自分がどうありたいか」とい  
 うことです。  
 病気がおさまれば、「働けるようになった」とか、「働かなくてはい」という状況になり、「働く」  
 を目指すと思っていますが、「ここで時間をかけて考えたい」とは、「自分がどうありたいか」  
 ことが幸せを感じるのか」ということです。誰と暮らして、どういう働き方をしたいか、と  
 んなやり取りがあって、冊子を読んだ後、「どういうワークスをする時間があった...。人それぞれ違  
 った、自分の幸せのイメージをしっかりと思い描くことが大切です。  
 なぜ、それが重要かというところ、職場復帰支援で、継続している方の大きな共通点だからです。  
 継続している方の多くは、「自分にとって良いか」を客観的に捉えられている方が多いと感  
 じます。自分の時間の過ごし方を、自分で決める主体性を持っています。  
 ですから、就職するための自先のスキルを磨くことも大事ですが、未来の自分のイメージ  
 や「どうありたい」像を、様々な体験を通して描んでほしいと思います。先輩方の多くも、  
 最初からできていたわけではありません。